

匠の街春日部かわら版

発行 備コーワ
編集 共栄大学発ベンチャー
街かひんしゃごっこ
編集長 橋本有美

「春日部匠の輪」-64- 匠大塚株式会社 代表取締役会長 大塚 勝久 様



代表取締役会長 大塚勝久さん

家族3世代が笑顔になれるインテリアのテーマパークが昨年6月29日春日部にオープンしました。取扱商品数約1万8千点、フロア面積約2万7千㎡、東京ドームグラウンド面積約2倍の匠大塚春日部本店は、1階から5階までを家具・インテリアの専門フロアとした日本最大級の規模となります。リーズナブルな商品から高級品まで、お客様のニーズに応えた幅広い商品を取り揃えています。



代表取締役会長 大塚勝久さん 代表取締役社長 大塚勝之さん

1階は、「伝統の継承と革新」をコンセプトにしたブラスヤ、国内外から選りすぐった照明・カーテン・絨毯までを一室にご覧いただけるフロア。2階は、100点を超える無垢天板をはじめ、国内有数の家具産地と匠大塚オリジナル家具があり、見応え十分です。3階は、リビング・ダイニング、食器棚など、家族がくつろげる空間づくりができます。4階は、国内外のプレミアムインテリアを「見たいだけの特選品フロア」。5階は、子供部屋家具、書斎、ベッド、総桐箆笥をはじめとする和家具まで、豊富な品ぞろえからお選びいただけます。

匠大塚では、「自宅無料フィッティングサービス」を行っています。気に入った商品が自宅のインテリアとバランスがとれるか、サイズ感は大丈夫かなどの不安を、実際に自宅に置いて試すことにより解消できます。

購入後も熟練職人による家具修理を行っていますので、良い品を長く使っていくことができます。

勝久会長は、幼少期から桐箆職人だったお父さんのお手伝いをしており、「両親がそのことをとても喜んでくださったこと



匠大塚店内風景

が家具店を始めたきっかけのことです。

おすすめの商品を伺うと「全ておすすめですよ。おすすめできない商品は置いていません。」とお話してくださいました。自社の商品に誇りと自信を持っているからこそ言える言葉だと思えます。

会長の趣味は、家具と車。店内には、会長所有のポルシェや世界的工業デザイナー奥山清行氏が率いるKEN OKUYAMA DESIGNが手掛けたkooderが展示されています。その中でも『ポルシェ356B カレラ2』は、55年前の車とは思えないほどピカピカで、まるで新車のようです。「本物は時を経て色あせない」という会長の想いがこもった匠大塚の商品と調和のとれた空間を演出しています。

11月9日から『響きあう空間

展』が開催されます。芸術と家具が心地よく響き合う時間と空間を楽しめる内容となっております。詳しくは、下記広告をご覧ください。

1階に家具をお探しの間にご利用いただけるカフェ「匠サロネ」、2階には、お子様にご利用いただけるキッズスペースがあります。車椅子やベビーカーの貸出しも行っていきますので、家族3世代で気軽に訪れてみてはいかがでしょうか。未永く一緒に暮らす家族のような家具と出会うのもいいですね。

TEL:048-763-4001
営業時間 10:30~19:00
毎週火曜日定休日(祝日は除く)

【読者プレゼント応募先】
ハガキに住所・氏名を明記の上ご応募ください。
春日部市内牧4158共栄大学内(有)かひんしゃごっこ読者プレゼント係
◆当選の発表は、引換券の発送をもってかえさせていただきます。
引換券1枚あたり、お渡しできるチケットの上限は4名様までとなります。

読者プレゼントとして『匠サロネ』食事券&ドリンク券を抽選で10組にプレゼントします。

記事内のQRコードをスマホで読み込んでいただくとインタビュー動画をご覧いただけます。(有)かひんしゃごっこ 有美)

米国のヘリーが黒船を率いて来航した時、吉田松陰が伊豆下田でヘリーの船に乗り密航を止めたが、果せなかつたことはよく知られている。その翌年(一八五五)、西伊豆の戸田へだからロシアに密航した人物がいた。その名を橋耕齋(一八二〇〜一八五〇)といふ。

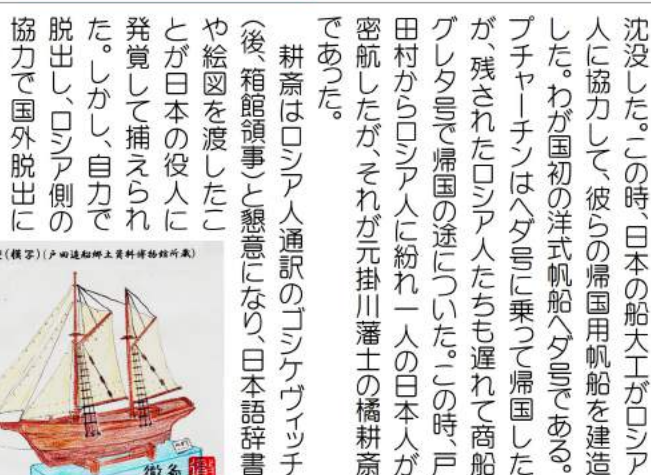
「歴史を歩く」第611話
幕末 ロシアに密航した橋耕齋

日露和親条約締結交渉のため下田に停泊中のプチャーチン率いるロシア軍艦ディアナ号は、安政の大地震(一八五四)で大破し、修理のため戸田港へ回航中に沈没した。この時、日本の船大工がロシア人に協力して、彼らの帰国用帆船を建造した。わが国初の洋式帆船ヘタ号である。プチャーチンはヘタ号に乗って帰国したが、残されたロシア人たちは遅れて商船グレタ号で帰国の途についた。この時、戸田村からロシア人に紛れ一人の日本人が密航したが、それが元掛川藩士の橋耕齋であった。

六八、明治六年(一八七三)岩倉使節団と日本からの使節を三度迎えている。文久二年の幕府の遣欧使節に随行した福沢諭吉は、「宿泊先の室内には和露辞典に毛筆と用紙、刀掛、日本の枕、煙草、浴室には又力袋を備えられ、食事は日本料理、箸や茶碗も日本と変わることがない(福翁自伝)と述べ、日本人が接待に関わっているに違いないと推測している。

耕齋はロシア人通訳のゴシケヴィッチ(後、箱館領事)と懇意になり、日本語辞書や絵図を渡したことが日本の役人に発覚して捕えられた。しかし、自力で脱出し、ロシア側の協力で国外脱出に成功したと考えられている。時にクリミア戦争(一八五三〜五六)の最中で英国とロシアは交戦中であり、耕齋が乗ったグレタ号はオホーツク海で英国軍艦に拿捕され、ロンドンに移送、抑留された。九か月に及ぶロンドンでの抑留生活中に、ゴシケヴィッチは耕齋の手助けで和露辞典「和露通言比考」(一八五七年刊)を編纂し、この辞典は初の本格的な日露語辞典として高い評価を得たといふ。

一八五六年、ロシアに渡った橋耕齋はロシア外務省で通訳として勤務し、ペテルブルグ大学では日本語教師の職に就いた。また、ロシア正教の洗礼を受けウラジミール・ヨシフォヴィッチ・ヤマトフ(大和夫)と名乗っていた。耕齋は、首都、ペテルブルグで文久二年(一八六二)、慶応二年(一八



橋 耕齋 日露和親条約締結交渉のため下田に停泊中のプチャーチン率いるロシア軍艦ディアナ号は、安政の大地震(一八五四)で大破し、修理のため戸田港へ回航中に沈没した。

響き合う空間展

上質な家具と地元ゆかりの芸術家たちが融合し響き合う美術展

11月9日(木)~12月11日(月)
会場 匠大塚 春日部本店

内藤徹雄(共栄大学名誉教授) 元副学長、全国歴史研究会 会長、都市銀行で国際金融に携わり、シンクタンクのチーフ・リストを経て、大学教授に転身。専門は国際経済・金融。中学以来「趣味は歴史」で、現在も歴史探訪を続ける。

六八、明治六年(一八七三)岩倉使節団と日本からの使節を三度迎えている。文久二年の幕府の遣欧使節に随行した福沢諭吉は、「宿泊先の室内には和露辞典に毛筆と用紙、刀掛、日本の枕、煙草、浴室には又力袋を備えられ、食事は日本料理、箸や茶碗も日本と変わることがない(福翁自伝)と述べ、日本人が接待に関わっているに違いないと推測している。

岩倉使節団の訪露を機に、岩倉貞視の勧めで橋耕齋は明治七年(一八七四)十九年ぶりに帰国した。帰国後は、樺太・千島交換条約締結(一八七五)に際して活躍するが、その後は世に出ることなく、増田甲齋と改名して仏門に入り、芝の増上寺境内の草庵に住み、一八八五(明治十八)年、六十五年の奇な生涯を閉じた。

漆芸家 増村 紀一郎 洋画家 金森 良泰 彫刻家 加藤 豊 彫刻家 伊藤 正人 彫刻家 清水 啓一郎

主催 響き合う空間展実行委員会
後援 春日部市 / 春日部市教育委員会 / 春日部市芸術文化振興会 / 春日部商工会議所
協力 東武鉄道株式会社